



なごやか農楽会の概要説明 ～農業ボランティア育成講座にて(20.11.7)～

- ◇ なごやか農楽会からのお知らせ  
～ 20周年史準備・実行委員会活動スタート ～  
～ コロナ禍と援農活動 ～
- ◇ 援農作業予定 (12～2月)
- ◇ 援農作業実績 (8～10月)
- ◇ 農家さん紹介／あいちの伝統野菜など

## なごやか農楽会からのお知らせ

### 20周年史準備・実行委員会活動スタート

10月24日に20周年記念行事準備実行委員会キックオフが開催されました。メンバーは、評議会メンバー6名と会員から募集した9名で構成されます。当初予定された、講演会・記念パーティーはコロナ下で中止とさせていただき、20周年史を令和4年4月発行のスケジュールで作業をスタートしました。会員・関係者各位には、20周年史作成にあたりご依頼・ご協力をお願いすることもありますのでよろしくお願いいたします。

なごやか農楽会だよりは、名古屋市農業センターのご協力により発行しております。

# なごやか農楽会からのお知らせ

## コロナ禍と援農作業

コロナ感染者数が少なくなった頃「コロナで大変だけど、援農作業はどうか（影響ある）？」とよく聞かれるようになり「ハウス内での援農作業が減っていますがコロナ以外の理由もあるので影響を掴むことは難しいですね」と答えておりました。

先日もどうかの？と聞かれ、その時数値だけではなく農家さんにご配慮頂いた事柄や会員の思いを具体的に把握してWITHコロナ時代の農楽会の援農活動の心得について考えてみようと思った次第です。

援農参加人数等を昨年度と比べる（表1：各支部は4、5頁参照）と4～5月の援農人数（守山と港・中川支部で）が減っています。守山支部長、港・中川支部長のレポート等を紹介します。

守山支部：A農家はハウス内の作業が多く感染の危険性を考慮し農家さんが援農中止を判断。4～5月援農中止、6月再開するが8月末迄最大5名迄/日の分散参加、9月からは制限無の援農実施。B農家は4月10日緊急事態宣言に伴い「人が集うことのリスクを考え安全を優先したい」との判断で4月10日～5月17日迄援農中止。C農家からは4月10日に援農実施にあたって「公共交通機関での援農は控えて欲しい。車で来る場合マスクなど自己防衛をすること。不安のある方は援農を遠慮して欲しい。作業に当たり三密を回避し、話すときはマスクを着用すること。作業の前後に手洗いを行うこと」の5項目の連絡事項を頂きました。援農参加のやり方は支部で異なります。守山支部等（天白支部除）は農家さんから連絡が無ければ全員援農参加可能又は農家さんとの事前調整で何名かが援農に参加するというやり方です。このため中止等の連絡が農家さんからあります。天白支部は依頼連絡が無ければ援農に参加せず、依頼があると参加するやり方です。天白支部の援農人数が変わらなかったのは屋外での作業で、消毒や間を空ける等の対策を徹底するから作業可能とのご判断・ご準備が農家さんにあったからと思います。

港・中川支部長は参加させて頂く立場から①三密を避ける（屋内作業において密にならないよう間隔をとり、援農先に従業員等が休みの時に会員が援農できるようお願いした）。②公共交通機関を利用した援農中止。③会員による送迎も原則中止し援農につき参加2名迄としたと、自ら取組んだことをレポートしています。

会員の思いについてです。2月から「ボランティア保険は自動更新ですか？」との問合せが増えました。例年には無い事象です。会員も感染が心配なんだろうなと思い、保険の申込窓口（天白社協様）に「コロナ感染は保険対象ですか？」と聞いたところ「対象外、保険は適用されません。保険会社から通知が来ています」と即答でした。保険会社の対応の速さに驚き3月評議会でメンバーに伝えました。

（注1）

4月頃の状況と随分違う今（10月下旬）、私達はコロナ感染対策をどの程度意識しているのでしょうか。

幾つかの対策の一つである三密を避けているからとか、農家さんの参加OKがあるから「大丈夫」という気持ちになっているように感じます。しかし、農家さんの参加OKにはコロナ感染対策を私達が取っているという前提があると思います。「三密を避ける」のみが私達の対策ではないように思います。

（注1）特定感染症に新型コロナウイルスが追加され、補償対象となりました。（2020年2月1日に遡及）。保険は単年度契約で、自動更新されません。

（注2）JVOAD作成の災害対応に関わるボランティア等の支援者向け感染症対策・予防に関する研修プログラム

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD：認定NPO法人）は「新型コロナウイルス感染症影響下では、ウイルスを持ち込まない、拡大させない、持ち帰らない」という原則に基づき、準備段階から被災地を離れ2週間後の体調報告までが支援活動なのだ」（注2）と記しています。

最初にWITHコロナ時代の農楽会の援農活動における心得と書きました。農楽会には援農参加にあたっての約束事があります。この約束事を私は「ボランティアである以前の人としての当然の心得です」と新しく入会された会員の皆さんに紹介しています。

コロナ禍において援農ボランティアを行う団体として農楽会はこれまでの心得に加え、

①援農作業の場所に「ウイルスを持ち込まない」

②援農作業の場所で「拡大させない」

③援農作業の場所から「持ち帰らない」

を会員共通の原則とし、具体的にどうするかを皆で考え定着させたいと思います。コロナとの戦いは続きます。（発行直前、第三波が起きましたが）常にこの原則を忘れず、原則に徹することが大切です。そうすることが農家さんとの信頼関係を更に築いていくことになると思います。

表1 援農参加人数等の推移

		19年	20年	増減
1月	援農人数	174	179	▲5
	援農先農家	13	13	0
2月	援農人数	150	156	▲6
	農家	11	10	▲1
3月	援農人数	196	106	▲90
	援農先農家	11	11	0
4月	援農人数	278	239	▲39
	援農先農家	15	12	▲3
5月	援農人数	222	274	▲52
	援農先農家	16	15	▲1
6月	援農人数	157	150	▲7
	援農先農家	11	11	0
7月	援農人数	88	83	▲5
	援農先農家	5	7	▲2
8月	援農人数	153	140	▲13
	援農先農家	10	8	▲2
9月	援農人数	1,418	1,327	▲91
	援農先農家	92	87	▲5
合計				

## 評議会報告

報告・審議・検討事項の概要

8月度会議（休み）

9月度会議（9月12日開催）

（1）20周年記念行事の見直しについて

来年度の20周年記念行事は、講演会・トークショーを中止し、コロナの感染状況に拘わらず実行できる20周年史の編集のみとする見直し案を検討し、承認された。

（2）20周年記念行事準備・実行委員会に10名程の会員方に参加頂けることとなった。また、3名の方にHP運営PJに参加頂けることとなった。

10月度会議（10月10日開催）

（1）20周年史編集等スケジュールについて

令和2年10月準備・実行委員会キックオフを行い、その後20周年史編集作業を開始し令和4年4月総会で会員等に20周年史を配布するスケジュールを進める。

# 援農作業予定 (12～2月)

## てんぱく支部



ニンジンの収穫

12月  
ミカンの収穫と選別作業  
小松菜の整理

1月  
ニンジンの収穫

2月  
ニンジンの収穫

## みどり支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。  
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に  
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に  
撮って下さい。支部長と相談の上。

12月  
トマト脇芽摘み、トマトトーン散布、誘引等  
葡萄、柿、ミカンの整枝剪定

1月  
トマト脇芽摘み、トマトトーン散布、誘引等

2月  
トマト脇芽摘み、トマトトーン散布、誘引等



# 援農作業予定 (12～2月)

## もりやま支部



畑整理

12月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
枝切り、つる切り 梅剪定

1月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
ぶどう皮むき 梅剪定

2月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
ぶどう皮むき ブルーベリー剪定

## 港・中川支部



箱作り

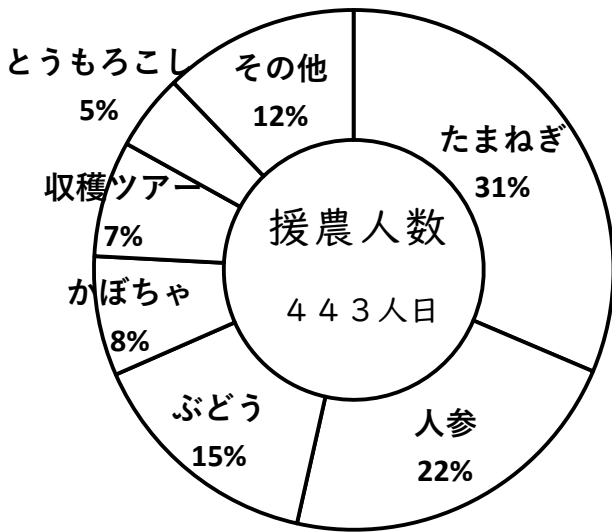
12月  
トマトの枝切り、ブロッコリーの収穫と袋詰め  
玉ねぎ・にんにく畑の草取り、にんにくの定植

1月  
糸切り、箱作り、ブロッコリーの袋詰め  
人参・ダイコンの種まき・収穫、  
ほうれん草種まき、人参、白菜の収穫  
玉ねぎ・にんにく畝の草取り

2月  
紐抜き・箱作り、ダイコンの収穫  
ミツバ収穫、玉ねぎ・にんにく畝の草取り  
ほうれんの収穫、ソラマメの支柱立て

# 援農作業実績 (8～10月)

## てんぱく支部



1人日=1人1日3時間の援農作業

三か月間(8月～10月)の援農実績は、58人日。  
累計(2月～10月)は443人日。  
三か月間の援農先は、3農家。

援農作業は、人参蒔き・鶏糞まき・間引き・草取り・泥だしが主な作業。  
この他、ネギ植え、キャベツ・白菜植え、さつまいもつる切り・収穫手伝い、朝市手伝い等。

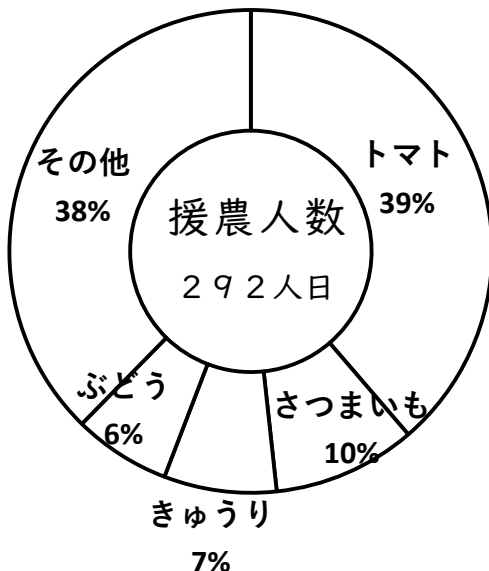
昨年同期(8月～10月)の援農実績 56人日  
昨年の累計実績は、407人日

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	67	23	48	101	78	48	13	27	405
20年	70	24	47	95	80	70	14	30	430
増減	3	1	▲1	▲6	2	22	1	3	25

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	4	2	2	5	5	2	1	1	22
20年	4	2	3	3	4	2	1	1	20
増減	0	0	1	▲2	▲1	0	0	0	▲2

上表：月別援農参加人数 下表：月別援農先農家数

## みどり支部



1人日=1人1日2時間の援農作業

三か月間(8月～10月)の援農実績は、49人日。  
累計(2～10月)は292人日。  
三か月間の援農先農家は、2農家。

援農作業は、トマト種まき・定植・鉢上げ・後片付け・誘引・ひもづけが主な作業。  
この他、ブロッコリー・きゅうり定植、大根種まき、とうがらし収穫、畑支柱取りなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 100人日  
昨年の累計実績は404人日。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	38	44	49	78	56	19	0	33	317
20年	37	38	39	48	63	12	0	29	266
増減	▲1	▲6	▲10	▲30	7	▲7	0	▲4	▲51

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	2	2	3	4	4	2	0	3	20
20年	2	1	2	3	4	2	0	2	16
増減	0	▲1	▲1	▲1	0	0	0	▲1	▲4

上表：月別援農参加人数 下表：月別援農先農家数

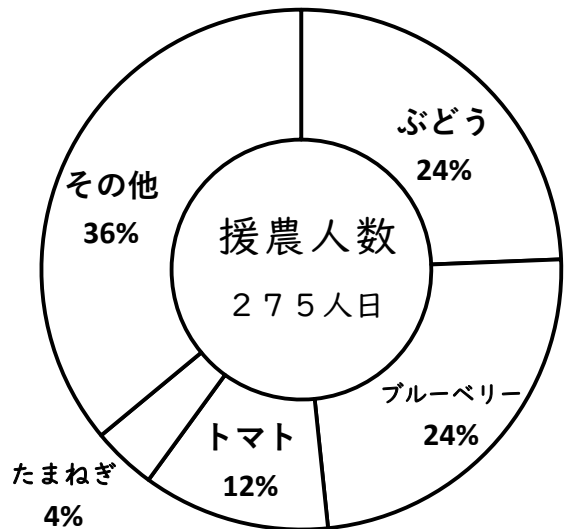
# 援農作業実績 (8～10月)

## もりやま支部

三か月間（8月～10月）の援農実績は、92人日  
 累計（2～10月）は275人日。  
 三か月間の援農先農家は、3農家。

援農作業は、ブルーベリーの収穫・施肥・耕うん・剪定、ぶどうワイン用収穫・枝上げ・発送作業・枝切り・誘引テープ切りが主な作業。  
 この他、玉ねぎ皮むき、分葱植え・収穫、梅剪定、ラズベリー土作り、みかん摘果、じゃがいも・トマト苗・ケール・カリフラワー苗植付、ニンニク畑作り等。

昨年同期（8月～10月）の援農実績 132人日  
 昨年の累計実績は242人日



1人日=1人1日2時間の援農作業

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	24	26	41	37	30	28	35	55	276
20年	41	51	7	24	55	30	27	34	269
増減	17	25	▲34	▲13	25	2	▲8	▲21	▲7

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	3	3	2	3	3	3	3	3	23
20年	3	3	2	3	3	3	3	3	23
増減	0	0	0	0	0	0	0	0	0

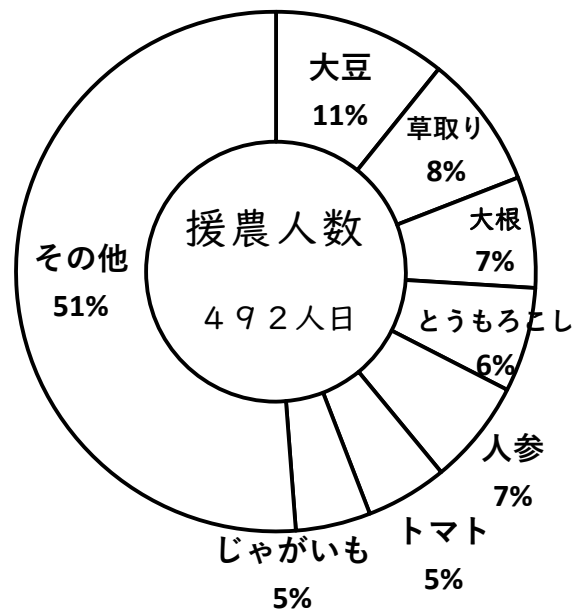
上表：月別援農参加人数 下表：月別援農先農家数

## 港・中川支部

三か月間（8月～10月）の援農実績は、156人日。  
 累計（2～10月）は492人日。  
 三か月間の援農先農家は、5農家。

援農作業は、ジャガイモ、トウモロコシ・枝豆・白菜の収穫、この他、大根・人参の植付け、唐辛子の収穫、ブロッコリーの苗作り・袋つめ、サツマイモ掘り体験補助、レタスの定植等

昨年同期（8月～10月）の援農実績 192人日  
 昨年の累計実績は519人日



1人日=1人1日2又は3時間の援農作業

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	45	57	58	62	58	62	40	38	420
20年	31	43	13	72	76	38	42	47	362
増減	▲14	▲14	▲45	10	18	▲24	2	9	▲58

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
19年	4	4	4	4	4	4	1	3	28
20年	4	4	4	4	4	4	3	2	29
増減	0	0	0	0	0	0	2	▲1	1

上表：月別援農参加人数 下表：月別援農先農家数



# 農家さん紹介

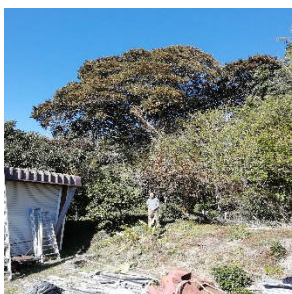
## 農でつながり、農が繋げる（野田農場：もりやま支部）



野田さんご夫婦 昭和23・24年生まれ。  
トマトハウスにて  
(10棟中2棟でキュウリ栽培中)

『 THINK GLOBAL  
ACT LOCAL 』

～視野は広く、行動は足元から～  
がモットーです



クロガネモチの木  
手前は間瀬副会長

もりやま支部で援農参加が最も多い野田農場さん。どんな話しを聞かせて頂けるかと期待しつつ、伺いました。ハウスの隣の作業所に入ると野田輝己さん、幸子さんご夫婦に笑顔で迎えて頂きました。元プロ野球の板東英二さんが“板東リサーチ”で取材に来た時に座った椅子に恐縮して座り、取材を開始したところ元祿から300年続く農家、輝己さんが10代目と聞き、吃驚です。中学の担任から「これから農業人口が減り、担い手ができず、貴重だ。やる気があれば賛成」と言われた。成人式の青年の主張で学区代表として「農業をやる」と言ったら会場がシーンとなったと輝己さんは複雑な表情で若き日の思い出を語って下さいました。

幸子さんは、浜松の農家のお生まれ。従兄から安城に農業指導の学校があると聞き受験、9月には農業総合試験場（長久手）内に新しく農技大となって移転したとのことです。この学校がお二人の出会いの場です。

米づくり（約15ha；水田は尾張旭、春日井等）は輝己さん、ハウス（トマト・キュウリ・ほうれん草・小松菜等栽培）は主に幸子さんの担当。県と名古屋市の認定農業者（国の農業の担い手）として娘さんご夫婦と4人の家族経営。2015年都市農業振興基本法成立で名古屋市も振興策が具体化し、2019年市街化区域で初の「経営移譲」ができ認可されました。米や有機多用栽培のトマトなどを作り、玉葱、ピーマン、ブロッコリー、ゴーヤ等も栽培とのこと。トマト以外に色々な援農実績があることを思い出しました。

農楽会とは、もりやま支部が出来た時（2006）からのお付き合いです。援農は非常に助かるとおっしゃって下さいました。作業所の掲示板に一月の予定表が貼ってあり、会員毎の援農参加予定日（会員が自分で○を付けます）が分かります。農家さんも会員も援農参加の状況が見える、良い仕組みだと思えます。トマトや野菜はJA産直センターやスーパーの地場産コーナーに出店する等地域との繋がりも大切にされています。

幸子さんは「子供たちが餓死しないよう食糧を生産することが願い」そのためにも生き物が暮らせる田や畑や自然が必要、自然を守る人や地域が大事、そう思っていたら感銘を受けました。板東リサーチのビデオを何回も見たお孫さんが農業をやりたい、農業に携わりたいと話すようになったとのこと。「孫には自分から農業の話をしたのは1回だけ」と幸子さんがうれしそうに話して下さいました。

娘さんご夫婦に続きお孫さんも農業を継ぐ、そう12代目の誕生です。お二人が若き日に目指した農業が娘さんご夫婦、お孫さんと見事に繋がっています。素晴らしいことです。

帰り際、輝己さんにハウスの直ぐ傍の区内で一番高い（20m）樹齢100年以上のクロガネモチの木と野田農場が12,000人を超える署名で残った事を教えて頂きました。この貴重な環境と野田農場がいつまでも続いて欲しい、そしてお二人から信頼される農楽会でありたい。そう思いました。

Q

野菜や果物について、農家さんに聞いてみたい、教えてほしいと思ったことはありませんか。  
Q & A（教えて、農家さん）のコーナーを新しく作ります。  
聞いてみたい、教えてほしいと思うことを募集します。  
聞いてみたい、教えてほしいと思うことがありましたら、以下によりご連絡下さい。

A



メルアドをお持ちの会員  
農楽会事務局 川合まで [m-k@mwd.biglobe.ne.jp](mailto:m-k@mwd.biglobe.ne.jp)  
様式は問いません。メールにて随時、お送り下さい。

メルアドをお持ちでない会員  
評議会メンバーに会った際、口頭又はメモでお伝え下さい。  
いつでも、構いません。  
評議会メンバーなら誰でも構いません。

いずれの場合も、支部、期、お名前をお忘れなく。  
(コーナー掲載時に匿名を希望される場合、その旨も、お忘れなく)

# あいちの伝統野菜



## あいちの伝統野菜

次号は大根を紹介します

まもなく師走。お正月用の小松菜の出荷のお手伝いが多くなります。そこで今回は菜類を紹介します。菜類はアブラナ科で、茎や葉を食べる野菜です。ハクサイ、キャベツも菜類に含まれます。黄色、稀に白色の十字形の花を開き、莢をつけます。Aゲノム種の基本型がアブラナ、結球するのがハクサイ、不結球がツケナです。原始型に近いツケナから不結球のハクサイが生まれ、改良されて結球ハクサイ（現在のハクサイ）が出来たようです。（注1）種の判別が難しいため莖葉を利用するアブラナ類を全てツケナと呼ぶ場合も多いです。ブラシカ・キャンベストリス（アブラナの野生種）は地中海地域、中央アジアから北欧まで広い範囲に自生しています。パピロフ（注2）は地中海地域をツケナの原生中枢とし近東及び中央アジアを二次的中枢としています。ツケナは中国に伝わり野菜として発達しました。このためツケナの原産地は中国と言ってもよいようです。ツケナは奈良時代以前に日本に渡来し利用法からアツナ、ククタチとオチに分化しました。貯蔵性、輸送性が劣るなどから漬物用栽培として生産されました。変異性に富んでおり、8群に分けられます。

	Aゲノム種	Cゲノム種	ABゲノム種	ACゲノム種
基本型	アブラナ	ケール	カラシナ	洋種ナタネ
葉(結球)	ハクサイ	キャベツ	タカナ	ハクラン
茎		コールラビ	搾菜	
花茎・蕾	苔菜	カリフラワー	大心芥菜	カブレナ
側枝	京菜	メキャベツ	セリフォン	
根	カブ		根芥子	ルタバガ

(\*1) アブラナ科の作物は、変異性に富み平行的な変異がみられます。例えば、ハクサイなどのAゲノム種で根が発達したものがカブとなります。

(\*2) ソ連の植物遺伝学者。遺伝資源の父と称される。栽培植物の起源、植物の変異性、耐病性、免疫性等を研究し「もっとも多くの作物の変種、すなわち遺伝的変異の存在するところが、その種の起源となる中心地である」との考えを基に“遺伝子中心説”を唱えた。栽培植物の発祥地を七大中心地に分けた。

### 参考文献

- 日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）
- 日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）
- あいち在来種保存会
- 愛知県HP 愛・地産・アラカルト農業水産局農政部園芸農産課

(アブラナ群) 最も原始型に近いものでナバナなどがこの群に入ります。茎立菜と呼ばれ春先花茎を食べるものにはこの群に近いものが多いです。茎立菜は平安時代から栽培されたツケナですが、時代や場所が違うと同じものとは限らなくなります。

(カブナ群) カブの仲間で葉がよく成長し、根もある程度肥大します。野沢菜は宝暦年間（1750年頃）に京都から持ち帰ったカブから生まれた品種といわれカブナを代表する品種です。根がかなり肥大し漬物にする葉は葉柄の断面が丸く多肉で漬物にすると独特の歯ざわりと風味があります。

(ハクサイ群) 結球しない品種で、広島特産の広島菜があります。広島菜は福島正則が京都から持ち帰ったツケナから改良されたともいわれています。

(雑種群) 小松菜がこの群に入ります。カブナや茎立菜に近縁の品種といわれ、品種間の交雑で成立した品種のようです。下総国葛飾群小松川地方（現在の東京都）で産したところから出た名で「茎円（まろく）して微（すこし）青く味旨し」（成形図説）との記載があります。この他体菜群、如月菜群、水菜群、洋種ナタネ群がありますが、割愛します。愛知の伝統野菜として菜類は餅菜もちな）、大高菜（おおだかな）、まつなが指定されています。



もちな

小松菜に近い在来の菜類であるが、現在の小松菜品種に比べ、葉の色は淡い。食感は柔らかい。



大高菜

形は野沢菜に似るが、それより繊維が少なく柔らかい。やや苦みがあり、餅菜として利用される。



まつな（若菜）

形は松の葉に似て、生育は旺盛である。幼葉を食し、味は淡泊で食感は粘質である。

写真：あいち在来種保存会提供

## 編集後記

コロナウイルスの第3波で感染者が大幅に増加しています。当初予定していました20周年記念行事のうち講演会・祈念パーティーは中止としました。20周年史の発刊は予定通り進めていきます。援農の交通機関利用中とかハウス栽培では換気十分でない等リスクあります。コロナウイルス感染症対策をしつつ援農をお願いします。これから寒い日が続きますので、風邪、コロナにかからぬよう対策してお過ごしください。

発行 **なごやか農楽会事務局**（水野・川合） 令和2年11月30日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。